

所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 心理学コース・准教授	
氏名	中里 直樹 (Nakazato Naoki)	
取得学位	博士 (心理学)、広島大学、2017年3月	
SDGs目標		

研究分野	社会心理学, ポジティブ心理学
研究キーワード	Well-being, 幸福度, 人生満足度, 自由, 居住環境・居住地域, 統計解析
研究内容	<p>「1. 日本人のWell-beingの低さをもたらす要因についての検討—自由の観点から—」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本人のWell-being (幸福度) は, 他の先進諸国の人々と比べると低いことが一貫して報告されています。その原因について検討することを中心的な研究課題と位置付けています。研究知見を基に, Well-being向上の方策を提言することを目指しています。 ➤ 特に, 個人がどの程度自由に振る舞うことができているか (i.e., 自由選択の感覚) に着目し, 日米の社会人などを対象として国際比較研究を実施しています。 ➤ 近年では, 社会における規範の厳格さや身近な人々との関係の良好さも踏まえた複合的な検討も行っています。 <p>「2. 居住環境・地域, 個人の特徴, およびWell-beingの関連性についての検討」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カナダのトロント大学に留学した際に実施した, 居住環境とWell-beingの関係についても引き続き関心を持っています。留学時には, 居住環境の向上を経験した人々を対象に, その前後5年のWell-beingの推移を分析しました。 ➤ 今後は, 日本国内および大分市内・県内における個々人の特徴に適した居住地域の研究を構想しています。 <p>「3. 学校教育現場や職場環境への『自由とWell-beingの関係』の適用可能性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究内容1で見出された『自由とWell-beingの関係』が, 学校教育現場に適用できるかについても関心を持っており, 大分県の教育現場での調査も始めています。 ● 従業員のWell-beingについては, 長期的な観点から見た職場環境への好影響の可能性から, 近年, 社会で注目を集めています。こうした研究にも関心を持ち, 大分県の女性を対象に, 希望するライフコースの実現度とWell-beingとの関連性についての調査も始めています。
研究業績・アピールポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際共同研究を含め, Well-beingに関する研究を10年以上にわたって実施してきた実績があります。 ● 多様な統計手法を用いて分析を行ってきました。公的機関が収集したものなどの大規模調査データの分析, 時系列データの分析, 国際比較分析, 個人 (各従業員など) と集団 (それぞれの職場など) との関係性を考慮した上での分析を得意としています。 <p>【主要論文】</p> <p>Nakazato, N., Nakashima, K., & Morinaga, Y. (2017). The importance of freedom in the East and the West over time: A meta-analytic study of predictors of well-being. <i>Social Indicators Research</i>, 130, 371-388.</p> <p>Nakazato, N., Schimmack, U., & Oishi, S. (2011). Effect of changes in living conditions on well-being: A prospective top-down bottom-up model. <i>Social Indicators Research</i>, 100, 115-135.</p> <p>【科研費研究プロジェクト】</p> <p>「規範の厳格さが自由選択の感覚とWell-beingに及ぼす影響に関する検討 (若手研究)」</p>